

子供の貧困の現状～子供の貧困を減らすための提案～

鹿本高校1年 菅原和菜 永田蓮 竹島美羽 小材奏人

要旨

SDGsの課題から、子どもの貧困についてもっと調べたいと思い研究を始めた。まず、最初に貧困の現状を知るために文献調査と山鹿市内の子ども食堂にインタビューをした。調べた結果から、日本は7人に1人の子どもが貧困状態にあり、世界的に見ても貧困率が高いことが分かった。これより、地域の子どもの食堂に取材を行い、子どもの貧困を減らすために自分たち自身にもできることがないかを考えた。

研究背景

日本は7人に1人の子どもが貧困の状態にあると言われている。(参考文献①)相対的貧困率(その国や地域の水準の中で比較して、大多数よりも貧しい状態のこと)は世界で7位でG7の中では最も貧困率が高い結果となっている。

研究方法

- ①子供の貧困の現状について文献調査を行う。
- ②地域の子どもの食堂に取材に行く。

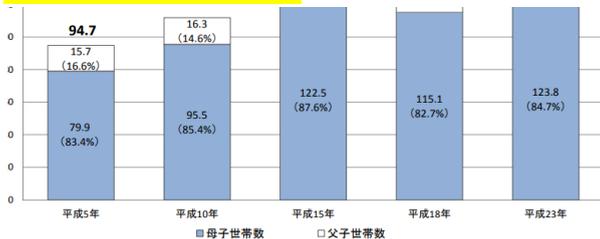
結果・考察

①文献調査

子どもの貧困の定義

日本における「子どもの貧困」とは「相対的貧困」(その国や地域の水準の中で比較して、大多数よりも貧しい状態のこと)のことを指し、その国の等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入のうち税金などを引いた所得)を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分に満たない世帯のこと。子どもの貧困とは相対的貧困にある18歳未満の子どもの存在及び生活状況のこと(参考文献②:三菱UFJリサーチ&コンサルティングより)

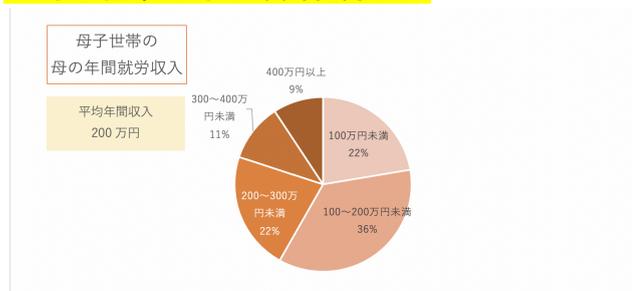
1)子どもの貧困の現状



(参考文献③より引用)

母子家庭と父子家庭の割合を比べると、圧倒的に母子家庭のほうが多い。➡ひとり親の家庭は母子家庭が多いことが分かる。

2)母子世帯の母の年間就労収入



(参考文献④: ママスマより)

貧困になりやすい年収は250万円以下だが、この表を見るとわかるように母子世帯の50%は年収が貧困になりやすいと言われる250万円以下だ。

山鹿での現状を知るために子ども食堂へインタビューを行った。

②インタビュー

8月23日: 子ども食堂百華に取材

子ども食堂を始めたきっかけ

- ・勉強や部活を頑張っている子が「また明日も頑張ろう!」という気持ちになる居場所を作りたい。
- ・コロナ禍で仕事をなくしたひとり親たちが生活を乗り越えるための通過点にしたい。

活動内容

- ・毎月第一土曜日、第三土曜日の子どもの食堂
- ・月一回の生活困窮者のためのパントリー

利用者、利用人数

開催回数: 23回

参加者数: 子ども…1894名

大人…515名

ボランティア…延106名

助け合い会…延200世帯

寄付について

- ・コープや企業から日用品の寄付
- ・地域の方々が子ども食堂のために野菜を栽培
- ・貧困をなくしたいと思っている人からお金の寄付

豊田さんのコメント

- ・子ども食堂はできるだけない方がいい
- ・自分の親がつかれていると思ったとき、家事を手伝ってほしい(ご飯を作ったり、洗濯物を畳んだり)

考察

文献調査の結果から、貧困率が高い原因はひとり親家庭であると分かった。ひとり親家庭で貧困率が高い理由として、全国母子世帯等調査からひとり親の家庭には年間就労収入が低い母子家庭が多いことが原因にある。子どもの貧困を少しでも減らすために私達にできることは家事を手伝ったり、このような状況の子どもが身近にもいるということを知ることではないだろうか。



引用文献・参考文献

①日本財団

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty

②三菱UFJリサーチ&コンサルティング

https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2023/08/seiken_230814_02_01.pdf

③各年度の全国母子世帯等調査

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000336oi-att/2r985200000338ck.pdf>

④ママスマ

<https://mamasma.jp/articles/222>